

(一社)日本家政学会第66回大会 3P-2
2014年5月25日(日)
9:00-16:00(討論11:00-11:45)
北九州国際会議場, 小倉

家政学・家族研究をつじた 家族問題の予防と支援-2

- Family Life Education: Working with Family
across the Life Span (2nd Ed.)に学ぶ-

○山下いづみ¹, 倉元綾子², 黒川衣代³, 正保正恵⁴
(¹FLEふじ,²鹿島短大,³鳴門教育大,⁴福山市大)

1

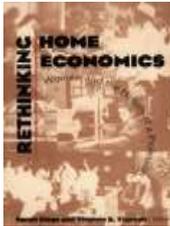
●目的

- 今日、日本の家族はさまざまな問題に直面している。一方、米国の家族生活教育はさまざまな家族問題に対する予防と支援を行ってきている。家族生活教育の文献を分析し、家族生活教育のルーツについて検討した。

●方法

- Family Life Education: Working with Family across the Life Span (2nd Ed.), Lane H. Powell & Dawn Cassidy, 2007, Waveland Press, USA(邦訳『家族生活教育:人の一生と家族』倉元綾子・黒川衣代監訳, 2013, 南方新社)
- Rethinking Home Economics: Women and the History of a Profession, Sarah Stage & Virginia B. Vincenti Ed., 1997, Cornell University Press, USA(邦訳『家政学再考:アメリカ合衆国における女性と専門職の歴史』倉元綾子監訳, 2002, 近代文芸社)等の文献研究

2



3

結果-1 初期の関心

- アリストテレス(紀元前4世紀):子育てのための親の教育
- ホレス・マン(教育学者, 1796-1859):親の義務を遂行する資格としての教育
- ハーバート・スペンサー(哲学者, 1820-1903):人間生活を形づくる活動のひとつ, 子育てとつげに関連する活動
- 米国の歴史の初期の時代…家族生活のための正規教育は無視された。
 - 17世紀…10人に1人の子どもが1歳の誕生日を迎える前に死
 - 開拓者・初期の移民…厳しい生活, 子どもたちの生命はしばしば短く悲惨, 毎日の生活に必要な課題の方が重要
 - 先住民…開拓者と敵対, 脆い家族生活, 過酷
 - 18世紀, 19世紀, 奴隷家族…非人道的状態

4

結果-2 19世紀アメリカの家族教育

キャサリン・ビーチャー(Catherine Beecher, 1800-1878)

- 『ドメスティック・エコノミー(家事経済学)論(A Treatise of Domestic Economy)』(1842)
- ドメスティック・サイエンス運動の発展に貢献
- 使用人を使わない家庭管理についての最初の包括的な本, 公立学校の教科のための最初の教科書。
- 「最初の数年が過ぎるまでに健康を損なう若い女性の数がどれほど多かったか…。(p. 5, 第3版, 1858序文)」
- 「そんなことは本で教えなくてもよいと反対されるかもしれない。なぜ教えなくてもいいのか。…人体の構造やそこから類推される健康の法則…幼児や幼い子どもの管理にこれらの法則を適用することは、なぜ重要ではないのか。(p. 7)」

5

ジェーン・アダムス(Jane Addams)(1860-1935)

- アメリカの社会運動家, 1915-34年 平和と自由のための婦人国際連盟議長, 1931年 ノーベル平和賞
- ハル・ハウス…家族介入・教育モデル開発。最成功例
- 親教育:教育の「架け橋」としての子ども。家庭訪問, 双方向対話型学習, 個別のグループ学習目標
- 教師:食事, 就寝時刻, 排便など, 家庭での子どもの活動の報告を求めた。それらの要素と日課の重要性に注意を促す。毎週, 母親の会(子どもの服作り, 調理など)
- 子ども:衛生と医療の新しい習慣, 新しい食べもの, 活動について教育
- 「国家的記憶喪失(national amnesia)」によって「忘れられた」。

6

19世紀後半 家族生活スキル教育の重要性についての認識、 確実に上昇

- 1872年 マサチューセッツ州議会、ドメスティック・サイエンス(家政学)承認。公立学校で家族生活教育、最初の州。他州に広がる。
- 1874年 イリノイ工科大、家事経済(ドメスティック・エコノミー)課程設置。
- 1875年から1890年 米国全土、公立学校のドメスティック・サイエンス、産業教育科目が増加。
- 1884年 コロンビア大学、主題と教育方法論を融合させた最初の大学プログラム設置。
- 1885年 家事科学(ドメスティック・サイエンス)、ボストン、公立学校導入。
- ~1895年 16大学、ホーム・エコノミクス(家政学)課程設置。
- 1887年 ハッチ法通過。農業試験場を作るために各州に年々15,000ドルを提供。農民を援助、農業のやり方を向上させる。ランド・グラント機関と密接に協働。栄養研究。
- 1890年 第2モリル法、カレッジにさらなる寄付を供給。基金の一部は黒人学生のための機関に使われ、17の黒人のランド・グラント・カレッジ創設。

エレン・リチャーズ(Ellen Richards)(1842-1911,米国家政学の母)

- 1873年 MIT(マサチューセッツ工科大学)、理学士(初めての女性)。
- 1873年 ヴァッサー・カレッジより科学修士。高等教育で科学の学位を獲得した最初のアメリカ人女性。
- 1878年 MIT(マサチューセッツ工科大学)の専任講師。アメリカ高等教育科学協会(American Association for the Advancement of Science)、彼女ともう一人の女性を最初の女性会員に選定。
- 1882年 『The Chemistry of Cooking and Cleaning: A Manual for Housekeeper(料理と洗濯の化学: ハウスキーパー〈家事をする人、主婦〉のためのマニュアル)』出版
- ニューヨーク大学理事会...カレッジ入学試験にハウスホールド・サイエンス(家庭科学)、エレン・リチャーズが問題作成

8

- 1882年 公営の下水処理法を現代化のための「大衛生調査」指導、最初の水質浄化表と水質基準を開発。
- 1890年 貧しい人々に低価格の栄養のある食事の利益を納得させるために、ニューイングランド・キッチン食物実演センター、ボストンに開設。他に、ロード・アイランド州プロヴィデンス、ニューヨーク市、シカゴのハル・ハウス。
- 1893年 シカゴ、世界コロンビア博覧会でラムフォード・キッチン。
- 1894年 ボストンにおける最初の栄養的学給食計画。
- 1901年 『The Cost of Food(食品の価格)』出版。
- 1904年 『The Art of Right Living(正しい生活の技芸)』出版
- 1910年 『Euthenics: The Science of Controllable Environment(優境学: 制御可能な環境の科学)』出版。
- 1910年 スミス・カレッジ、名誉学博士号。
- 1911年 死去。

9

結果-3 専門職組織の出現

- 男性学者も家庭と家族の教育に関心
- 1899-1909 家政学についての初めてのレイク・プラシッド会議(LPC)、12人出席。10年間、毎年。
- 1909年1月1日 830人(女性765人、男性65人)によりアメリカ家政学会(American Home Economics Association, AHEA)設立。
- 目的「家庭、家庭的施設、コミュニティにおける生活状態の改善」。
- 1909年 『家政学』誌(Journal of Home Economics)刊行開始。編集者、コロンビア大学教育学部ベンジャミン・アンドリュース(Benjamin Andrews)。

10

1910-1930年 アメリカの家族への大きな支援と研究の時代

- 子どもの発達と家族組織に関する研究が社会学者と社会心理学者の強い関心を呼んだ。
- 1909年 第1回子ども福祉ホワイトハウス会議
- 1914年 親のための幼児の世話についての刊行物
- 1914年 各州のランド・グラント大学に協同エクステンション・サービス(Cooperative Extension Service)設置。
 - 「家庭に...関連する問題についての有益で実際の情報を...普及するのを支援する」。
 - 家政学者が500家庭を訪問、女性6,000人教育。
- 1917年 アイオワ大学、米国初の子ども福祉研究センター(Child Welfare Research Center)設置。
- 1917年 アーネスト・バージェス(Ernest Burgess)、シカゴ大学に米国最初の家族コース設置。

11

1920年代 親教育は国家的関心事。

- 「親と教師の全米会議(National Congress of Parents and Teachers)」
- 1929年までに、500以上の研究グループ。75以上の主要組織、親教育プログラムを実施。政府助成金。
- 1926年 現代家族の危機について(バージェス)
 - 異質な要素から構成される変化している社会のなかでは、慣れ親しんできた考え方はほとんど必然的に流動的になる。
 - 変化するアメリカ社会の衝撃(カオス)が緩和されることはない。
 - 一見、家族の組織化と非組織化のありとあらゆるパターンが混沌として混ざり合った塊のように見える。
 - 何らかの新しい形の粗野で無謀な行動によって、特にもはや通常の管理では制御できない若者の反抗的な行動によって、国民がショックを受け、憤慨しない日はほとんどない。

12

- 1934年 結婚と家族の社会関係のための教育会議 (Conference on Education for Marriage and Family Social Relation) (アメリカ家政学会 (American Home Economics Association), 米国社会衛生学会 (American Social Hygiene Association), コロンビア大学教育学部の代表, 社会学分野や心理学分野の専門家)

⇒ 全米家族関係会議 (National Conference on Family Relations)

- 1938年 全米家族関係学会 (National Council on Family Relations, NCFR) に名称変更。理論, 研究, 実践の統合をめざす。
- 基礎的会員資格・・・家族研究関連分野 (人間発達, 結婚と家族療法, 家族社会学, 発達心理学) の研究者や実践家のため。
- 1984年 認証家族生活教育者 (Certified Family Life Educator, CFLE) の認証プロセス・・・学歴, 職歴, 卒後教育など。
- 1996年 大学プログラム認証プロセス・・・認証された大学プログラムの卒業生, 暫定的CFLE審査を迅速に受けられるようにする。

13

結果-4 家族生活教育への関心の高まり

家族関連の研究と刊行物の90%は1940年代以降。

- 1945年『あなたが結婚する時 (When You Marry)』
- 家政学の支配的地位の高まり, 家族生活教育関連の特別な教材の出版

20世紀後半 家族の役割と責任の急激な変化

- 一般社会の関心や学生の興味が家族生活や伝統的家事スキルへのアプローチからも離れる。

人間発達・家族研究 (human development and family studies, HDFS) 領域への関心の急速な広がり。

- 結婚・家庭カウンセリング, 家族ミニストリー (family ministry, 教会での家族援助・サービス), 社会福祉事業, 子どもの生活と幼児教育などの仕事のための基礎と見なされている。
- 多様なコミュニティで, 多様な聴衆に対して, 家族生活教育の授業をするための専門知識として期待されている。

14

まとめと課題

家族生活教育に関する文献の研究から, 米国の家族生活教育が, 19世紀後半のピーチャーによるドメスティック・エコノミー, 19世紀後半から20世紀初頭にかけての家政学運動・エレン・リチャーズ・レイク・ブラッド会議, アメリカ家政学会の設立 (1909), 20世紀初頭のジェーン・アダムスによるセツルメント運動 (ハル・ハウス) にルーツを求めることができることが明らかになった。1920年代の家族問題への関心の高まりを受け, 1934年に家族に関する専門組織として全米家族関係会議 (National Conference on Family Relations) (現在の全米家族関係学会 (National Council on Family Relations, NCFR) が設立され, 専門職組織として発展してきている。

日本においても, 家族をめぐる問題に対する研究とニーズを踏まえた共同で包括的な家族問題予防のための教育が求められる。

15